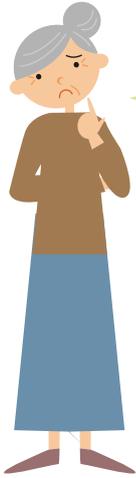


さいがいじ ひなんしえんじぎょう 災害時あんしん避難支援事業

ご存知ですか？

(沖縄市委託事業)

さいがいじ たいせつ じぶん み じぶん まも
★災害時、大切なのは・・・「自分の身は自分で守ること」



さいがい ひとり ふあん
災害のとき、一人では不安。
どうしたらいいだろう・・・

じぶん み じぶん まも たいせつ
自分の身を自分で守るには大切なポイントがあるよ！

- たと さいがい そな
例えば、①災害の備えをしておくこと
- ちいき ひと ひごろ
②地域の人と日頃からコミュニケーションをとること
- ただ じょうほう え
③テレビ・ラジオなどから正しい情報を得ること
- こま まわ ちいき ひと つた
④困っていることを周りや地域の人に伝えること



おきなわし ひなん かん
また、沖縄市には避難に関するサポートしてくれる
さいがいじ ひなんしえんじぎょう
災害時あんしん避難支援事業というのがあるらしいよ！

◆対象者は？

さいがいじ ひなん かん ふあん かた ふあん よ そ
災害時の避難に関して不安がある方の不安に寄り添っていきます！

自分1人で
避難するのは
難しいな～



身体障害者手帳 1.2 級、
療育手帳 A、
精神障害者保健福祉手帳 1 級をお持ちの方、
要介護 3 以上の方など

子ども達とも
離れて暮らしてて
不安だな～



高齢の一人暮らしの方など

◆どんな支援が受けられるの？



- ひごろ そな かん べんきょうかいなど ひなんしえん くんれんなど あんぴかくにん
① 日頃の備えに関するアドバイス (勉強会等) ② 避難支援 (訓練等) ・安否確認
- ひごろ こえか みまも ちいき たいふう じぜんれんらく ひなんじょ じょうほうていきょう
③ 日頃の声掛け見守り (地域のつながり) ④ 台風などの事前連絡、避難所の情報提供

すみ慣れた地域で、
あんしんして暮らす毎日を！

★★手続き方法★★

①まずはご連絡を

おきなわ し しゃ かい ふく し きょう ぎ かい
沖縄市社会福祉協議会

TEL. 098(937)3385

FAX. 098(937)3422

メール. shakyo@okicityshakyo.com

住所. 沖縄市住吉1-14-29

あんしん避難の
たんとう
担当いますか？



②自宅訪問・申請書記入・名簿の登録

じ たく ほう もん じぎょうせつめい しんせいしよ きにゅう
自宅訪問し、事業説明をさせていただき、申請書の記入（代筆可）
ていしゅつ おこな
提出を行います。（※1）

しんせいしよていしゅつご ひなんこうどうようし えんしゃめい ぼ とうろく
申請書提出後、避難行動要支援者名簿へ登録となります。

とうろくご じょうほう ひごろ みまも かつよう さいがいじ あんびかくにん
登録後の情報は、日頃の見守りに活用し災害時には、安否確認や
ひなんしえん かつよう
避難支援に活用します。

名簿の登録の際に必要な情報（一部）

1. 住所
2. 氏名
3. 性別
4. 生年月日
5. 電話番号
6. 緊急時の連絡先
7. 避難時に必要とする支援の内容（避難の際は車椅子が必要など）

（※1）
申請の際には、避難
支援関係者（消防・
警察・民生委員・自
治会・自主防災組
織）に対し、支援に
必要な個人情報を
提供してもよいとい
う本人の同意が必要
となります。

③個別計画書の作成

き と からだ じょうたい さいがいじ ひなんけいろ しえんしゃ
聞き取りをしながら、お身体の状態、災害時の避難経路、支援者の
じぎょうほう こべつけいかくしよ さくせい
情報などをまとめた個別計画書を作成します。

さいがいじ しえんしゃ しゃくしよしゃくいん しょうほう けいさつ ひさい ぼあい
災害時は支援者（市役所職員・消防・警察など）も被災している場合がございます。

じぎょう りょう さいがいじ しえん しょう
この事業を利用することによって、災害時の支援を保証するものではありませんので、
りかい ねが
ご理解いただきますようお願いいたします。

日頃飲んでいるお薬や、
避難するとき心配な事
なんでもお話ください。



災害発生時の要支援者と公的機関は・・・



さいがいじ ぶ あん かん たいしょうしゃ かた とうろく ま
災害時への不安を感じている対象者の方のご登録をお待ちして
 おります。お気軽にご相談ください。

みなさま まわ たいしょう かた
また、皆様の周りで対象となる方がいらっしゃいましたら、ぜひ
 ご案内ください!!

災害時あんしん避難支援事業活動の様子

名簿の登録や個別計画書の作成以外にもさまざまな取組を行っています。



各地域の福祉連絡会で、当事業の説明や、備えについての勉強会などを開催しています。



勉強会では、手軽に揃えられる非常時持ち出し品（防災リュック）の紹介なども行っています。



要支援者の支援に向けた自主防災組織への活動支援、避難訓練の計画支援なども実施しています。



勉強会で活用できるよう研修用の DVD を制作し、団体・サークル等へ貸出を行っています。

「避難」「コロナ」に対応

災害時あんしん避難支援事業に登録を！

沖縄県民の防災意識は低いといわれます。みなさんもそう思いますか？

実は、沖縄県民は、昔から「やるべき防災活動」を個人レベルで行ってきました。たとえば、旧盆の中元贈答品には、ツナ缶やポーク、そうめんがよく選ばれますね。仏壇に備えられた後、台風時の食の備えにまわります。カツオ節、昆布などと共に沖縄を代表する保存食品で、非常に理にかなっています。

意識が低いどころか、「台風防災のエキスパート」です。

一方、地震と津波に対する備えは苦手です。経験がなく、台風のように予測ができないことが理由です。また、社会の著しい変化は、新たな災害課題をもたらしています。

- ① **閉じ込め**：単身高齢化は孤立を進め、存在が見えにくくなりました。沖縄は非木造建築が96%で、平時も外から人の様子がわかりにくい。老朽化すると地震の際に扉や窓が開かなくなり、脱出も救出も遅れます。
- ② **老老避難**：最大の盲点は、高齢者夫婦です。「夫婦そろっているから自力での避難が可能」と考えがちですが、近年の災害では高齢者夫婦の逃げ遅れで亡くなるケースが目立ちます。
- ③ **自動車避難**：台風の避難時も自動車を使う人が多いですが、道路冠水や倒木で避難所への道が塞がれるケースが増えました。高波や高潮の冠水、浸水に自動車がはまると、バッテリーが海水に反応して火災を起こします。3年前の台風 21 号では、大阪湾の高潮で多数の車両が炎上しました。
- ④ **感染症リスク**：昨年コロナが加わりました。最大の問題は、避難所の「密」と「衛生状況」です。県外では以前から指定避難所の満杯が問題となり、コロナ禍以後は、行政が指定避難所の定員を大きく減らしました。国は、指定避難所ありきではなく、自宅か地域の安全な場所の確保を勧めています。

大規模災害の犠牲者は8割が高齢者です。「移動」「避難場所」に問題があることは明らかです。

避難先での衛生環境も課題です。① **情報収集や移動を高齢者だけで行わない** ② **避難先で密になってもコロナリスクを下げる方法を知り備えておくことが重要です。**

沖縄市社会福祉協議会の「災害時あんしん避難支援事業」は、この問題に対応しています。

災害時の情報提供やコロナリスクを下げるアドバイス、避難支援と安否確認、日ごろから地域での見守り体制づくりを行っています。「迷惑をかけたくない」と遠慮される方もおられますが、仲間づくりだと思って気兼ねなく申し込みましょう。

防災は、気軽に「助けて」と言える環境づくりから。ぜひ、登録してください。



【プロフィール】 稲垣 暁 (兵庫県神戸市出身)

阪神淡路大震災被災をきっかけに、新聞社に勤務しながら福祉にも携わる。社会福祉士・防災士として、県内各地域で防災実践や教育活動を行う。RBC ラジオ「アップ!!」で水曜コメンテーターを担当。

お問い合わせ先

沖縄市社会福祉協議会
TEL. 098-937-3385 (担当：あんしん避難支援事業)
FAX. 098-937-3422
沖縄市役所 健康福祉部 ちゅいしいじい課
TEL. 098-939-1212 (内線 3182)

